

男と女の裏に潜む悪魔を覗く

実録探偵物語

取材・文／石川清 イメージスクラッチ／k3

結婚12年目の仲むつまじい夫婦……
ある日突然、妻(38歳)が消えた……
メールで出会った若い男(23歳)と駆け落ち……
ひとり息子(10歳)を残して……
パニックに陥った夫(40歳)……

そして、私(31歳)に依頼がきた……

探偵プロフィール
山本幸(仮名・31歳) キャリア7年ながら、これまでに数々の事件・問題の解決、都内の中堅の探偵事務所・調査会社に所属する探偵。今後の業務では、今後の業務に定着しないよう全て匿名の委託とした。

依頼人プロフィール
橋本智久(仮名・40歳) 小柄で肥満気味のいわゆる経父。妻(38歳)と息子(10歳)の3人でアパートで暮らしていた。消えた妻の行方を調査依頼。10万円が報酬予算。

依頼対象者プロフィール
橋本美子(仮名・38歳) ここにいて普通の専業主婦。だが夜から毎日あそびていたのか、いつかの探偵電話の出会いがきっかけにはある。そこで知り合った男と浮気。夫と息子を残し駆け落ちした。

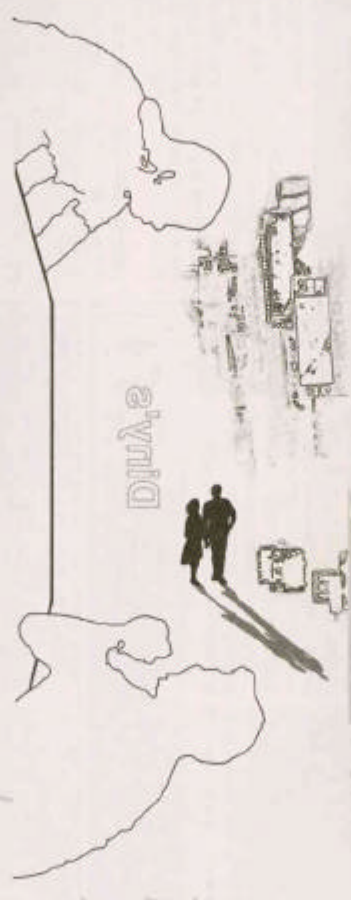
「つを尾行してほしいんです!!」
電話の向こうの声はやたら切羽詰まっていた。僕は「とにかく落ちるくように」なだめ、事情を聞くことにした。

「妻が、子供と私を家に残して、若い男の元へ去ってしまったんです。その妻が浮気相手とこれから妻の実家を訪ねるというので、その時になんとか尾行して、どこにいるのか調べてほしいんです!!」

聞くところ、妻と浮気相手が妻の実家に現れるのは、なんと今から3週間後のことだ。僕の探偵事務所から埼玉県W市にある妻の実家まで、電車で1時間はかかる。とにかく時間が無い。道々で事情を説明してもらった。すると、本来、二人以上で行く尾行だが、二人分雇うお金がなく、失敗してもいいから一人で尾行してくれと夫は言う。だいたい浮気調査の場合、3〜4日間探偵一人あたり20〜30万円。経費別が俺の相場。しかし、夫は総額で10万円が限界だというのだ。時間が無いので、とにかく俺は一人で現地へ急いだ。

もつと早く連絡してくれりゃ楽なのに。途中、一駅で夫と合流。幸い電車は空いていたので、なんとか状況を把握することができた。概要は以下の通りである。

妻は妊娠していた! 激怒した夫は墮胎を要求! 浮気相手に慰謝料500万円を請求!



夫は激怒して、浮気相手の自宅に乗り込んだ。相手の男はサラリーマンで、両親と同居している。男は夫に対し、頭を丸めてお詫びしたという。夫は男に500万円の慰謝料請求を行い、一方で妻に子供を墮ろすことを認めさせた。妻は少し抵抗したものの納得した。しかし、その墮胎手術の前日になって、突如妻は浮気相手の元へ走り、身を隠してしまっただ。相手の男もその日から家を出て、職場も無断欠勤したまま。つまり、

夫は激怒して、浮気相手の自宅に乗り込んだ。相手の男はサラリーマンで、両親と同居している。男は夫に対し、頭を丸めてお詫びしたという。夫は男に500万円の慰謝料請求を行い、一方で妻に子供を墮ろすことを認めさせた。妻は少し抵抗したものの納得した。しかし、その墮胎手術の前日になって、突如妻は浮気相手の元へ走り、身を隠してしまっただ。相手の男もその日から家を出て、職場も無断欠勤したまま。つまり、

のヒロインって感じなのかもしれないけど、こつちにとっては依頼者の利益が全てだ。

さて、肝心の調査へ話を戻すとしよう。妻の実家の最寄り駅の一つ手前で、俺たちは電車を降りた。妻たちとは合わせを防ぐためだ。妻はそのままタクシーで自宅へ帰り、俺は、夫から受け取った妻の写真を手に、目指す隣の駅へ再び電車で乗って向かった。小柄でかい(対象者を指す隠語)の妻は30歳。いや20代って言っても通じるかもしれない。

妻の実家は駅から徒歩10分ほどの位置にあるが、ここはトフルが起きた。妻と男は確かに妻の母親の元へと現れた。

俺は尾行した。二人は電車に乗った。しかし尾行を警戒していないのだから、最後尾の車両の目元に付かない一番端っこに二人は隠れていた。俺は隣の車両に乗り込んだ。二人を見失わないように気を配った。二人は……意外な駅で下車した。なんと、夫と妻の暮らしていた家の最寄り駅で下車したのである。たまたま俺も、そこで二人はハンバーガー屋に入った。平日平穏という安いハンバーガーを二人で一つずつ買った。どうやらお金を節約しているらしい。まあ当然と云える。いつまで続く遠行になるかわからないのだ。この時若い男はほとんど貯金はなく、逃走資金は妻の貯金でまかなっていた。妻の口座には300万円ほど残っているはずだ。

夕食を終えた二人はバスに乗り込んだ。俺もあわてて同じバスに飛び乗った。俺はマルタイからほんの2mほどのイスに座った。こんな至近距離に接近すると、これからの尾行に支障をきたすのだが、仕方ない。

二人は終点の某ターミナル駅でバスを下りた。そしてラブホテル街の裏道の物陰に入ると、何やらゴンゴンし始めた。なんと、お互いの上着を交換し始めたのだ。妻の体格は小さいが、かなり大きめのジャンパーを羽織っていた。一方、男は肉厚な男の体。上着の交換は十分可能だ。俺は注意して50m離れた位置から注意深く監視をしていたのだが、着替え終わった二人は、逃げるように走り始めた。

俺はあわてて後を追った。しかし、残念ながら二人を見失ってしまった。その後、俺は夫に連絡。夫は二人でラブホテルをしようがしに探して歩いていったのだが、残念ながら二人を発見できなかった。終電時間が間近に迫っていた。タクシー代は出せない。と語る夫と別れて、俺は帰路について……

以上が俺がこの事件について行った調査のすべてだ。夫も、金に余裕があればもっと調査を続けたことだろう。しかし、俺もお人好しなのか、電話で無料相談に応じたやっていた。マルタイを見失ったことに引け目を感じたのかも知れない。

さて、事件の後日談だが、実は夫はその夜に二人を探した。二人はラブホテルではなく、24時間営業のファミレスでいちゃづっていたという。夫は逆り露わにそこに乗り込んだのだが、逆りに返り討ちにあった。ホコホコにされた逃げられたらう。夫は頭などに数回バチンと俺を負わされ、病院送りとなった。

その後1ヶ月余りにわたって二人は逃避行を続けたのだが、俺は夫にアドバイスして、妻の貯金の差し押さえを行った。兵糧攻めを行うことにしたのである。しかし、それでも妻は戻らなかつた。風流の噂に湘南に流れ、墮胎はしたらしい。しかし、夫の元へは戻らぬまま、夫から俺への連絡は途絶えた……

今、妻を誘う夫の依頼が急増中! ~プロが語る探偵業界の実情~

現在、当探偵事務所への依頼の7割は浮気調査です。10年前までは大抵が夫の浮気調査を依頼するケースが多かった。今は浮気調査を依頼するケースは減りつつあります。夫が妻の浮気調査を依頼するケースは増えつつあります。

妻を追う夫、夫から逃げる妻! 探偵は予算に合わせて職務を遂行するのみ!!

(株)日本調査情報センター
代表取締役・中村賢
03-5804-0771
www.comink.jp/~tantei